

まつもと じゅん
松本純

中区・磯子区・金沢区
**まちかど
政治版**



平成17年 2月1日号
発行 かながわ1区支部
編集長 平木 茂

2月号
2005年
No.24

問合せ●横浜市中区野毛町2-65 電話045-241-7800 FAX045-253-0585 ホームページ www.jun.or.jp

成功の秘密は「誰でも歓迎」と「開けっぴろげの運営」 野毛大道芸がNHK放送文化賞を受賞!



地域文化の発展に功績のあった個人や団体をたたえる「第10回NHK関東甲信越地域放送文化賞」に、野毛大道芸実行委員会が選ばれました。私はその実行委員長を務めたこともあり、新年にこれ以上ない、お年玉をいただいた思いです。表彰式は2月7日、東京・渋谷のNHK放送センターで行われます。

正直いってあのとき、「野毛大道芸」が、横浜を代表するような、こんな大きなイベントになるとは思いもしませんでした。「あのとき」とは第1回の野毛大道芸が開

かれた19年前のことです。あの時代の野毛は、力強く復興に立ち上がった戦後の活力と輝きを失い、新しいショッピングモールや大型商業施設にお客さんを奪われていました。

「このままでいいのか」。当時40歳前後の商店主や飲食店主のそんな思いから始まったのが、野毛大道芸でした。家業の薬局を継いだ私もそのひとりだったのです。野毛を中心に活動していたパフォーマーのイクオ三橋さんという強い味方はいましたが、運営にあたる私たちは全員素人。なんのノウハウもありませんでした。



▲現在の野毛大道芸実行委員長 藤代邦男さん

そこで、私たちは開き直りました。「芸人さんでも運営スタッフでも、誰でも歓迎。来る者拒まず」「運営は開けっぴろげに何事も包み隠さず」を2本柱にしたのです。ちょっと理屈っぽくいえば、門戸開放と情報公開ということになるのでしょうか。今回の受賞理由のひとつに「ニュース取材だけでなく、FM放送にも積極的に出演、情報提供を行うなど放送への貢献も大きい」というのがありますが、それも、野毛大道芸の推進力となったこんな精神が評価されたのでしょう。

野毛大道芸は今、野毛の街だけではなく、お隣の伊勢佐木町、吉田町、そしてJR線をまたいで、みなとみらい21地区まで拡大しました。大道芸人さんに関する情報の集積から、野毛が日本の大道芸の情報センターといわれるまでになっています。「いつでもどこでも、大道芸のある横浜の光景」。その実現のお手伝いに、今後も全力で取り組みます。

松本議員の国会レポート ⑮

平成17年

【1月4日(火)】

- 午前10時 ●横浜市賀詞交歓会
- 午前10時30分●自民党横浜市連役員初顔合わせ
- 正午 ●馬車道商店街協同組合賀詞交歓会
- 午後3時 ●総務省御用始め式
- 午後4時 ●消防庁より津波に関し報告

【1月16日(日)】

- 午前10時 ●瀬ヶ崎西部町内会もちつき
- 午後2時 ●洋光台防犯活動本部開所式
- 午後3時 ●富岡南部町内会新年会
- 午後7時 ●杉田十日会商店街無尽新年会
- 午後7時 ●内川町内会役員新年会
- 午後8時 ●曙町1・2丁目町内会新年会

【1月18日(火)】

- 午前7時 ●早朝駅頭演説会(京急杉田駅)
- 午前10時 ●第71回自由民主党大会
- 午後2時 ●インドのダヤニディ・マラン通信・IT大臣と麻生総務大臣・調印式
- 午後4時 ●地方財政に関する総務大臣 地方6団体合
- 午後6時 ●横浜市幼稚園協会新年会
- 午後8時 ●山元町2丁目商栄会新年会

御用始め式を終えて政務官室に戻るとすぐ、消防庁からスマートフォン沖地震、インド洋津波に関する報告を受けました。消防庁は被災地域への対応のため、直ちに緊急消防援助隊の出動を要請し、東京、大阪からはヘリコプター各1機が現地に派遣され大活躍していることが報告されました。今回の史上最大の津波被害に対して、世界各国の官民からの援助が続いていますが、今後の長期にわたる復興支援は、自衛隊の派遣などで、日本政府も全力で取り組みます。

JR洋光台駅近くに、「洋光台防犯活動本部」がオープンしました。住民と横浜市、神奈川県、県警の4者が共同で設置した「民間交番」です。最近の治安の悪化に、行政や警察に頼るだけではなく、住民にもできることを、と県内で初めて設置されました。午後3時から10時ごろまで、ボランティアが常駐して防犯活動の拠点として使われます。伊勢佐木町地区では市民とガーディアンエンジェルスによるパトロールが行われていますが、さらに広がりそうです。

インドのダヤニディ・マラン通信・IT大臣と麻生太郎総務相との間で、両国の情報通信技術協力に関する調印が行われました。両国は電子政府、遠隔教育、遠隔医療の推進などについて協力。さらに「いつでも、どこでも、だれでもネットワークにアクセスできる」というユビキタス・サービスでも協力し合うことになりました。私は昨年7月、インドを訪問しましたが、そのときはマラン大臣とはお目にかかれなかったのが、大変うれしい大臣の来日でした。



御用始め早々、スマートフォン沖地震、インド洋津波に消防庁の緊急消防援助隊が出動、活躍の報告を受けました



オープンした洋光台防犯活動本部で



インドのマラン大臣と

永田町日記 『議席への近道、なんかない！』

先日、産経新聞の取材を受けました。自民党の選挙では、自民批判票の多い県庁所在地を中心とする各県の1区で議席を獲得するのが難しく、「1区現象」と呼ばれています。その中で、神奈川1区で議席を獲得した私に、「なぜ松本純は？」という質問でした。私は「有権者の皆さんの動向をしっかりと分析して、地道に運動を続けること」と、午前3時に起きてホームページを書いてから駅頭に立つ毎日のことを話しました。1月21日の「保守新時代・第1部 再興への出発」という連載で紹介されましたが、実際、私は『議席への近道、なんかないと思っています。そのためにも、「瓦版」が皆さんと私の双方向の情報交換の場になれば、と願っています。(純)

まつもと じゅん プロフィール▶昭和25年4月11日、横浜市中区生まれ▶本町小、聖光学院中・高、東京薬科大卒、薬剤師▶本町小PTA会長、横浜JC専務理事、野毛大道芸実行委員長として、街づくりや地域活動に取り組む。▶平成2年、横浜市議中区補欠選で初当選、3期務める。▶平成8年、衆議院総選挙で神奈川1区当選、専門を生かして医療・福祉・年金などに全力投球。介護保険制度を創設した責任者の一人。▶平成12年の総選挙で次点落選。▶平成15年11月9日衆議院2期目の当選を果たし、総務大臣政務官に就任。